



日本から、OECDティーチングコンパスへ 問題提議と提言に向けて

～ 日本型学校教育の強みや課題を活かす、今後の教師の在り方 ～



2024年10月13日（日）

戸田市教育委員会教育長
日本OECD共同研究総合座長

戸ヶ崎 勤

Restricted Use - À usage
restreint



問題提起ーこれでいいのか…

- 「**新しい能力**」を求める語りや**知識偏重批判**は、歴史的に繰り返しなされてきた。それが現状へのほどよい問い直しとして機能しているうちはよいが、それが進行すると根拠のない危機を煽り続ける言説となり、「**改革のための改革**」に陥る
- そのことで、**もともとうまくいっていたものの「土台」まで掘り崩されてしまう状況**が生み出されていることを危惧する
- 諸外国の文化や制度や先進的な取組から学ぶことも時に大切である。しかし、**日本の外部や公教育の外部にユートピアを見出し、「現在の教育はおかしい」という煌びやかで先導的な語り**に、自らの頭で考え判断する余裕を失った教育現場は翻弄され、**自前の言葉や文化や理論**を失っていくことを危惧する
- 他国の優れた実践をそのまま導入しても、風土や価値観に合わず現場が疲弊することがある。きれいな切り花を持ってきて、土に植えても根付かないのと同じ。**それぞれの国や地域の強みを継承し、発展させながら課題に向き合い、未来を創造することが大切である（→継往開来）**

日本型学校教育の強みを活かすには？（継往開来*）

学制が公布され令和4年9月4日で150年を迎えた日本の学校教育には、次のような「強み」があると考えられる

- 知・徳・体をバランス良く育む「全人的な教育」を重視し、国際的にも評価されている
- 教科等に加え給食活動や課外活動などの広範囲の活動に関わる**包括的な教育**の提供や、**学校地域社会の連携（コミュニティスクール等）**がある
- 多様な子供たちの共学、**学び合いや教え合いなど集団を活かした学び、個に応じた指導や指導と評価の一体化、**など学習指導の蓄積がある
- 教科教育研究、授業研究、「時・場・礼（時を守り 場を清め 礼を正す）」**など**基本的な生活習慣の指導**など、世界に誇れる固有の教育財産の蓄積がある

* 継往開来とは、先人の知の蓄積を継承し、発展させながら未来を創造していくこと

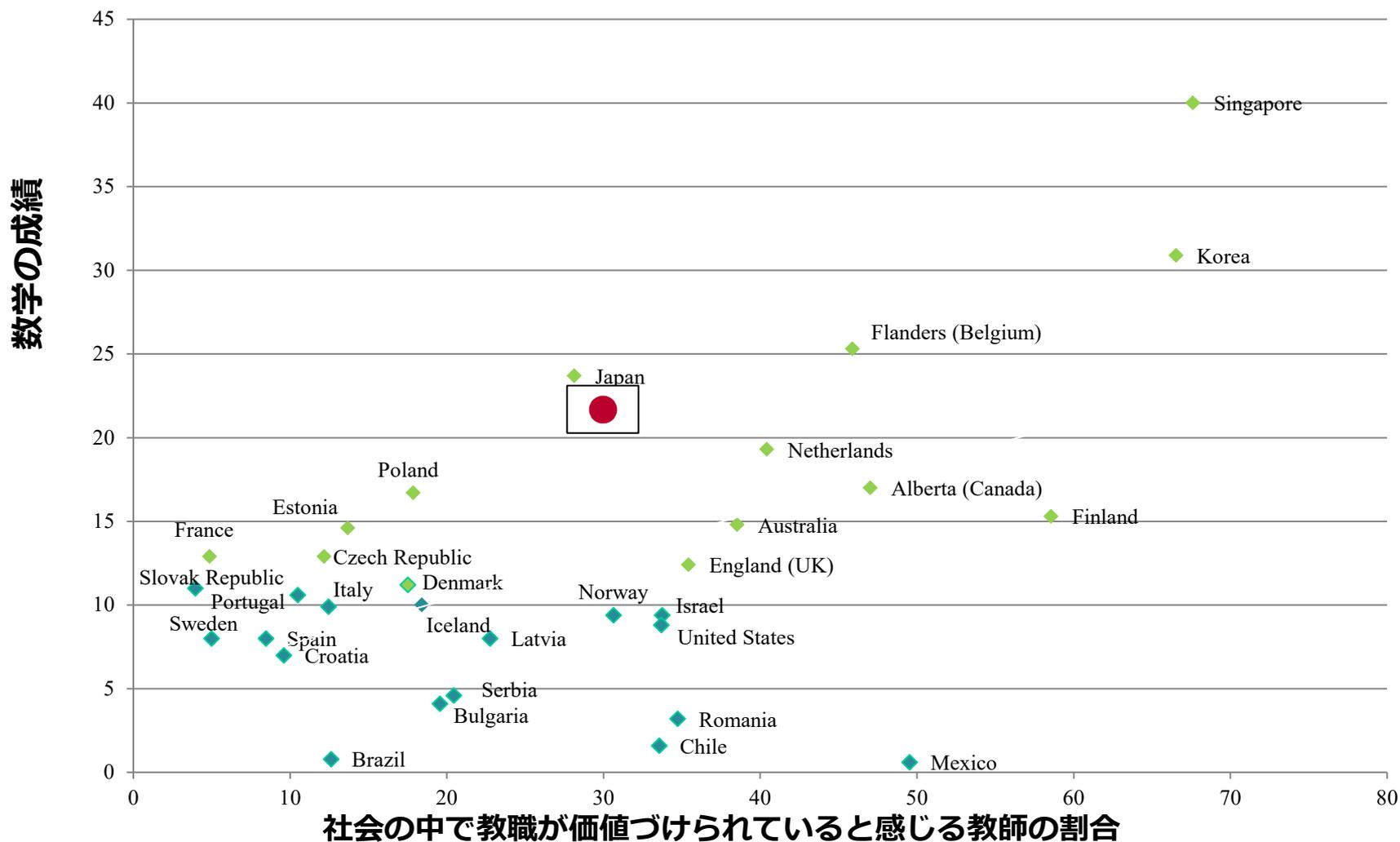
日本型学校教育の強みを活かすには？（継往開来）

- 国内のどの学校でも、**学習指導要領を踏まえ教育課程（カリキュラム）を編成することから**、一定の水準の教育を受けられ、しかも教員免許を取得した一定レベル以上の**専門性のある教師が指導**している
- 学習機会・学力や全人的な発達・成長を保障することに加え、人と安全・安心につながる**ことができる居場所・セーフティネットとしての福祉的な役割も担ってきた**
- これらは「**教師たるもの五者（学者、医者、易者、役者、芸者）たれ**」と言われ続け、多くの献身的な「**多能工の教師**」たちに支えられてきた
- 「**継往開来**」の精神で、これら日本型学校教育の強みを引き継いでいきたい。その維持には、**学校や教師の負担軽減などが不可欠**

日本型学校教育の強みを活かすには？（PISA2022）

- 以前からトップクラスである**科学的と数学的なリテラシー**は一層向上し、課題とされていた**読解力**もV字回復
- 社会経済文化的背景（ESCS: Economic, Social and Cultural Status）を是正している**レジリエントな国**とされている
- 教師のなり手不足という現状を改善するためにも、学校の役割の重要性を再認識するとともに、**教師がリスペクトされることが重要**。このため、こうした国際調査から見られる強みを国や教育委員会、学校現場とで改めて共有する必要がある。
- OECD諸国では、**変革プロセスのマネジメント（Change management）**を重視する傾向にある。こうした国際比較や研究結果を、**変革プロセスを促すツールの一つとして活用する国もある**

社会における自分の職業の価値に関する中等教育教員の見解と、PISA2012における数学成績上位者の国別割合との関係



教師の働き方

○ OECDの2018年の国際教員指導環境調査(TALIS)によると、日本の教師の1週間当たりの勤務時間は小学校で54.4時間、中学校で56時間と参加国の中で最も長く、参加国平均の38.3時間の約1.5倍にもなった

○ また、教師が多くの時間を費やしているのは授業準備やクラス運営、学校事務などではなく、その他業務となっている

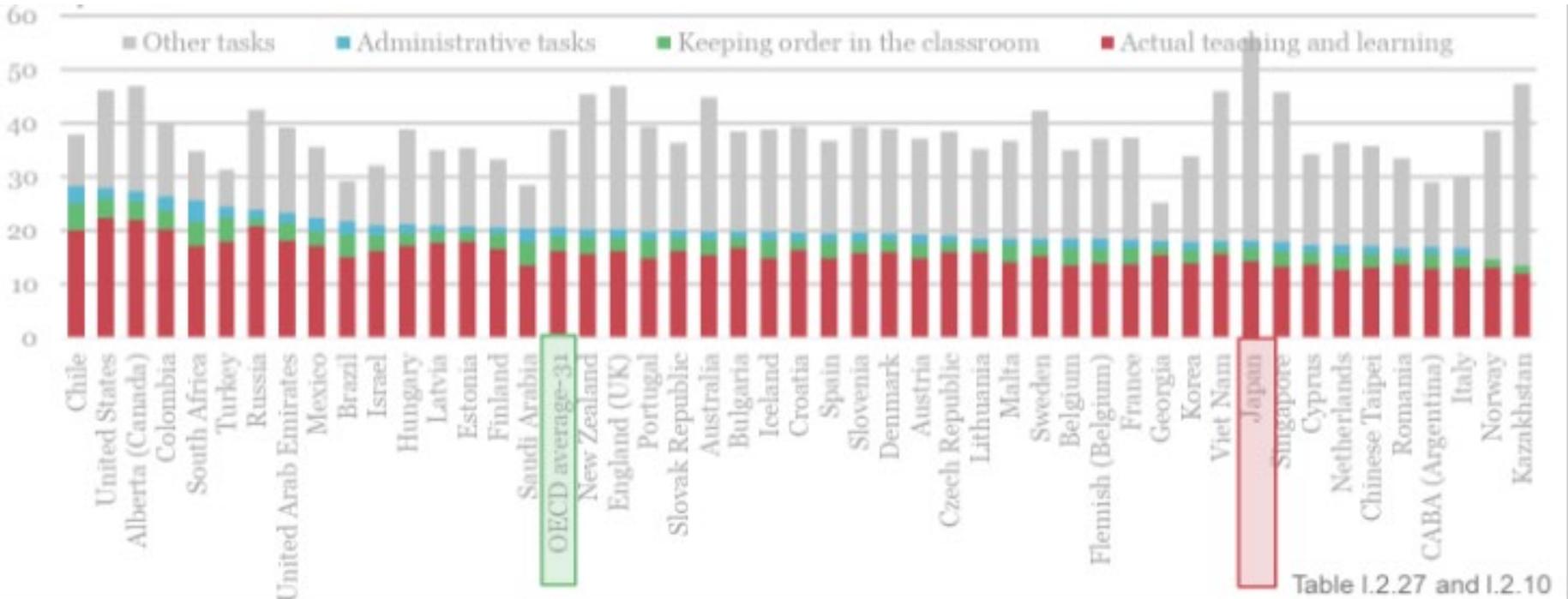


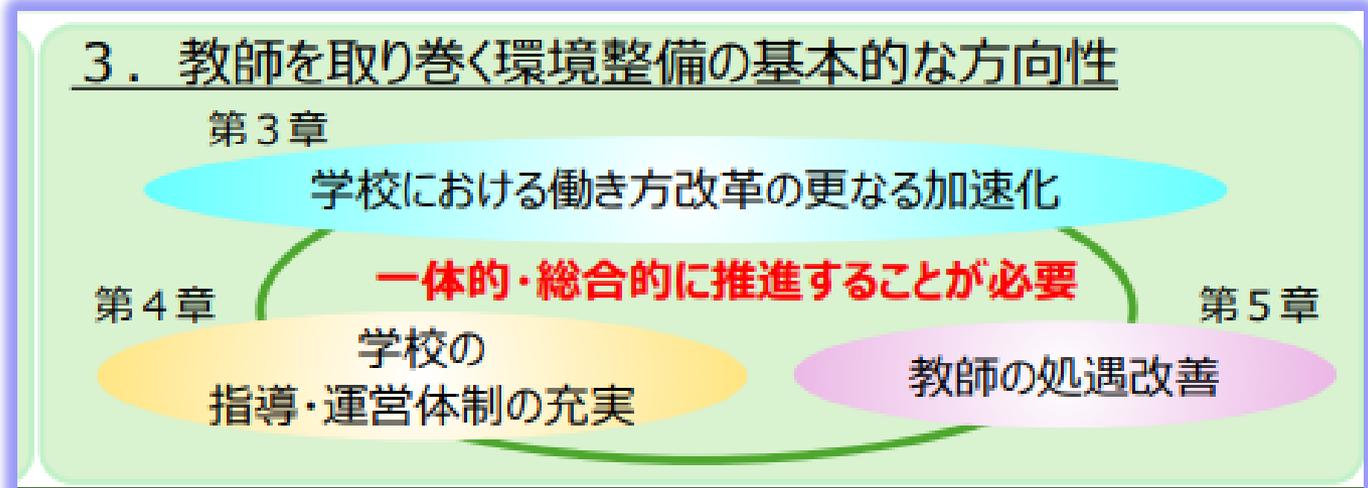
Table I.2.27 and I.2.10

「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について（答申）（中教審第251号）
令和6（2024）年8月27日 中央教育審議会

○学校における働き方改革の更なる加速化

○学校の指導・運営体制の充実

○教師の処遇改善



生徒主体の学びを指導・支援する専門性を持つ教師

○教師個人のエージェンシー

「自分たちの自前の言葉や文化や理論」を一人一人の教師が持つこと、教師としての自負とオーナーシップと責務の念が重要
→「教師の矜持」

○教師と生徒の共同エージェンシー

「啐啄同時の指導と支援」や「教師の学びと子供の学びは相似形」
また「出藍の誉れ」など、生徒と教師の互恵的な関係性の重要性

共同エージェンシー 指導と支援のバランス

- 日本の教育界では、かつて「**教師は指導者ではなく支援者である**」と「支援」を強調したあまり、次第に教師が指導を手控えて「傍観者」となる傾向があった。その後「**指導＝強制**」のようなイメージは払拭されていない
- 教師が出過ぎると、子供の主体性が削がれる一方、指導不足では基礎が定着しない危険がある
- 指導と支援のバランスが重要であり、「子供から学ぶ」姿勢も大切**

事例 1) 大阪府泉大津市立小津中学校

- 何をどのように学びたいのか（校則含め）生徒が考える
- 地域・社会・世界とつながるプロジェクト学習も実施
- 生徒の提案を頭ごなしに不可能だとせず、受容する
→生徒の提案を教師間で共有できるシステム・学校文化づくり



事例2 OECD E2030生徒部会による、おさんぽワークショップ

- 同じ景色でも異なる観点を「異なる教科の見方・考え方」から学びを深める。
- 教師が全てを準備、または事前に完全に整えて教えるのではなく、リアルなコンテクストで生まれる生徒の問いや着想を学びにつなげる**教師の専門性（教育的タクト）**
- ジレンマ「効率性と創造性」** 「臨機応変力と確実な計画・実行力」

Epistemological approaches
各教科の特質に応じた「見方・考え方」

リンゴとナシは何が違うのか。甘さはどうか。水分量はどうか。どうやったら調べられるか。	理科
リンゴのサイズ別分類がしたいな。体積は類似の円の体積から求めるか。サイズ別の出現率は？	数学
リンゴが育つ土地の気候の特徴は？うちの庭で植えられるのかな。	社会
リンゴの赤は美しいけど、炎の赤とはまた違う落ち着きがあるよね。	美術
このリンゴの美しい色を伝えるのに「赤い」と「紅い」はどっちがいい？艶のある赤、なんてのはどうか。	国語



石川県外の生徒や教育関係者と輪島高校の先生方に案内頂き、海岸沿いをおさんぽ。
生徒は、教科書からはなく、目の前の現実から「歴史、地理、数学、美術の見方・考え方」に、気づく。

参照：文部科学省初等中等教育局 岩岡寛人さん資料

- 近年、スマートではあるが子供の学びが浅くなっている授業が散見される。**自校の目指す授業の「風景画」（授業観）**が広く関係者（校長・教師・保護者・生徒など）と共有・理解され、教師自身が教育課程や授業をデザインしているという**「教育課程や授業づくりのオーナーシップ」**の感覚を持つことが必要。
- インターネットで知識等に簡単にアクセスできるからこそ、**「深さ志向」**を重視しつつ、「中核的な概念（ビッグアイディア）を掘り下げて質的に深く学ぶことで、量的にも多くを学べる」という意味での**「less is more」**の具現化の必要性が改めて教師に自覚されてしかるべき

「教師の自己犠牲が当たり前ではない教師像」と、それに伴う「新しい教師像への社会的理解」

- 教師という職業が「子供たちの未来」や「社会の未来」を担う重要な職業であるにもかかわらず、その知的刺激や挑戦の機会が減少し、信頼や尊敬が揺らいでいる現状
- 献身的で責任感の強い教師の持続可能なウェルビーイングを考える。

事例 1) 阪神淡路大震災の教訓から、平時の取り組みへの示唆

- **平時から「命を中心に据えた教育」**を意識
- 災害時には、子どもたちのみならず、教師も被災していること、また、被災地支援に入る支援者も、少なからず被災している→災害時の子どものみならず、**教師のケアと、支援者のセルフケア**の重要性
- 災害時には、**迅速な初動が肝心**。全国から教師や、栄養教諭、スクールカウンセラーなどを派遣する**仕組み&平時からのコミュニティー化が肝心**。例：兵庫県教育委員会が設置しているEARTH (Emergency and Rescue Team by school staff in Hyogo)
→2024年、文部科学省は全国にEARTHのような「D-EST (Disaster Education Support Team)」の仕組みをつくることを発表

7月 EARTH派遣 再び珠洲市へ

こころのケア

防災教育

防災体制



労い

寄り添い

分かち合い



学校再開支援

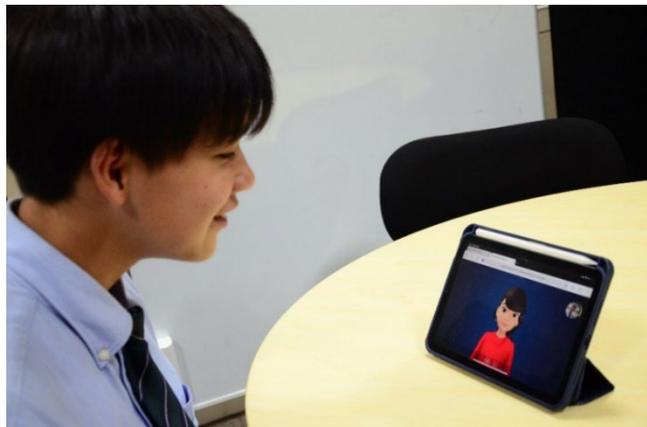
避難所と共存しながら



事例2) 教師のウェルビーイングを支えるAIの活用

○AI開発者の眼

学校に様々なツール・プラットフォーム導入→学校の負担軽減とは反対の方向に→今後の野望「教師の判断を支援する「目」と「耳」として働くAIティーチング・アシスタントの開発



○AI開発者と中高生のコラボ

中学生がAIツールの利用者としてAI開発者にフィードバックの事例、高校生がAIツールをAI開発者と共同デザインを予定←教師の丁寧な伴走の役割

→「学校現場と企業が共同で開発する**新たな産学連携モデル**」が生まれる可能性。

生徒が、自発的にAI開発者に、イラスト付きフィードバックした例)

B版をプレイして

AIの高度な技術により、言葉を変換することができました。まだ試作品なのでできないことも多かったですが、試作品とは思えないグラフィックでした。AIの表情もとても良かったです。身振り手振りも人間的らしく、見た目だけで見ると、まるで人間と楽しく会話しているようでした。

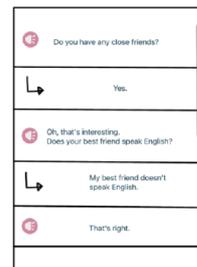
しかし、改善の余地はたくさんあります。私がまだ未熟で英語をあまり学べていないことにも原因があるかもしれませんが、なので、思ったことをいくつか挙げておきます。が、私は、今から書く感想に嘘や偽り、大袈裟な表現を使用するつもりは全くありません。嘘の感想なんかを書いてしまえば、最高の英会話アプリになることはないはずだからです。お世辞などを書く意思はありません。開発者の皆さんは、この感想を偽りのない本音と受け取って読み進めてください。

① 言葉を変換することはできるけれど、まだ「会話のキャッチボール」をしている気持ちにはなりません。試作段階ということもあると思いますが、自分の誤りに応えてくれないところが少し残念です。「話す速度が遅いので少し遅く聞かせてもらおう。Can you speak English slowly?」と言うと、「Yes, I can speak English」で流され、元の質問に戻ってきてしまいます。しかも、話す速度は全く変わっていません。話す速度を遅くと言うか、英会話スタート前に設定できれば良いです。

② わからない単語をメモしようとして、「なんて言ってたっけ?」と考えながら書いている間に他の質問に移ってしまうところもです。知らない単語を後日まとめて調べて記入しようと思っても、英語に慣れていない人ならまだしも、私のように、「英語を少し学んでいるから、英会話に挑戦してみようかな…」という気持ちで始めた人は難しいと思われる。なので、初心者向けの設定で、AIの側に障ったことリストみたいなものを導入すると良いと考えます。英会話終了後、そのAIが障った単語や文章の意味がわかるようにするともっと良いです。

③ ①で言ったように、このAIは質問のスピードや会話のスピードが(私にとっては)とても速いです。なので、「I beg your pardon?」と聞いて、質問をもう一度聞こうとした。すると、「OK」で流されて、次の質問に移ってしまいました。これに関しては、②の「障ったことリスト」の追加機能なんですけど、文章をタップすれば音声で流れるというのどうかな…。一時停止ボタンとかを導入して、その一時停止画面で見れる(再生できる)ようにするのもいいと思います。そこは開発側に任せます。

現時点(2024/05/23)で感じたことは以上です。この意見を通して、アプリケーションの開発の参考になれば幸いです。アプリケーションの開発の成功を祈ります。



このような表示を追加できるようにしてほしいです。追加できるようにすれば見直しもできますし、色々学びやすくなると思います。設定で非表示にできるようにするとなお良いです。

音声ボタンみたいなのがあってもいいですね。一時停止ボタンを配置するとしたら、画面左上の端でございかな。



提言3) 教師の資質能力(知識・スキル・態度・価値観)に関する提言

多様な背景を持つ子供たちをしっかりと想定できる教師

- 不登校・外国ルーツ・特別支援を要する・社会的養護を要する等、多様な子どものニーズに対応する教師へのニーズが増えている

臨機応変に指導法を調整し“教育的タクト”を発揮できる教師

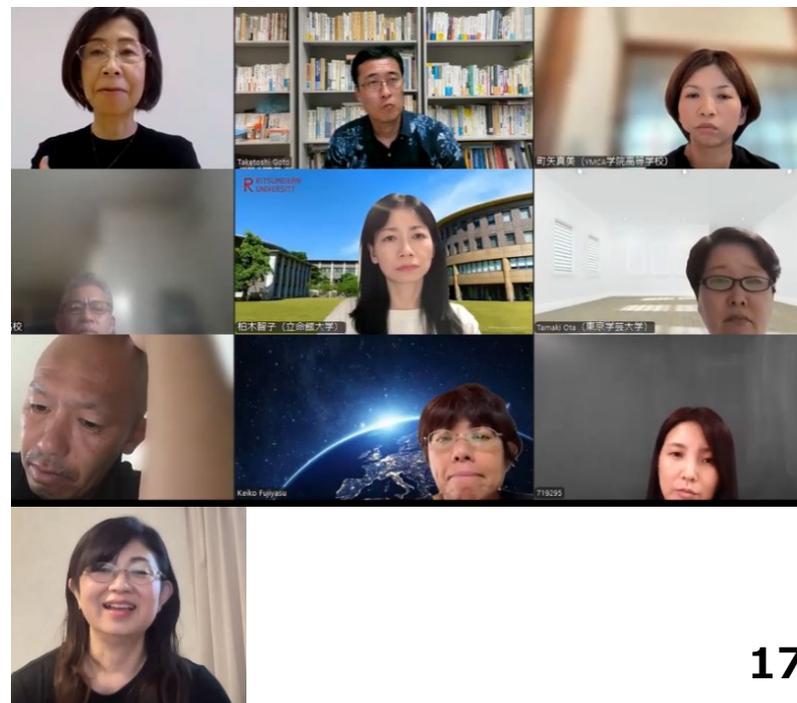
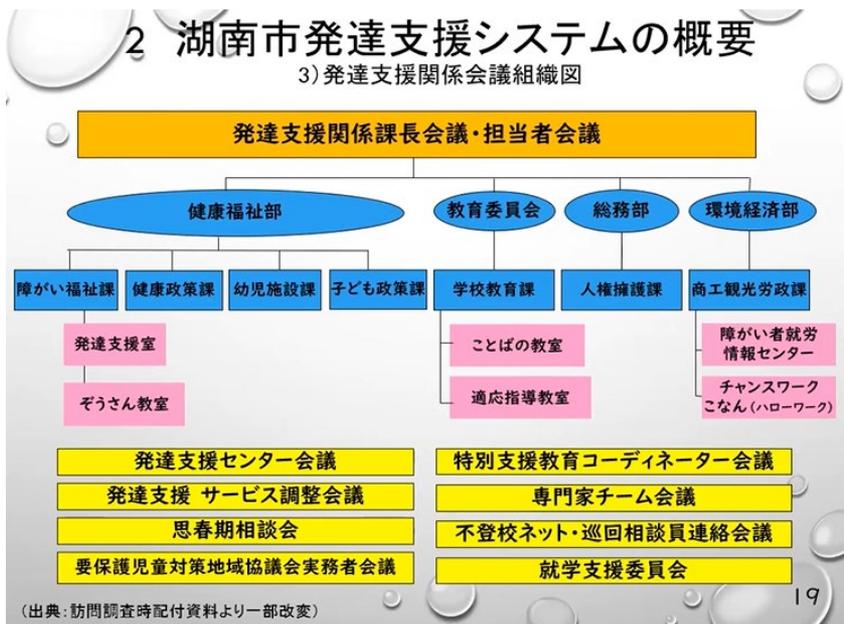
- 「教育的タクト」とは、教師が個々の生徒の状況や感情を素早く察知し、直観や経験に基づいてその場に応じた柔軟で適切な対応をする能力を指す
- 「教師の資質・能力」の根底にあるのは「教師の価値観」とであるとされています。例えば、「教育観」「子供観」「授業観」「評価観」など、これまで重視され当たり前とされてきた、これらの価値観を今一度問い直す必要がある

事例1) 多様な生徒のニーズに対応する教師とその教師を支援する制度の整備

○ 多様な生徒のニーズへの対応

- 1) 不登校の子どものための居場所「校内教育支援センター」
- 2) 貧困や虐待に対応する加配教員

○ **部分最適から全体最適へ**。根底にある「教育観」を明確化・言語化、制度の各側面が有機的につながる教育エコシステムとして捉え直し。社会で広く共有された一貫した教育観の上に、一体化した効果的なシステム構築が必要



事例 2) 海外の教育を体験した教師と 生徒の眼を通して見る日本の教師の強みとこれから

教師の視点

- 道徳や掃除などは、表層の単なる「特別活動」ではなく「**情緒が育つ教育**」として認識
(ウズベキスタンで「日本型インターナショナルスクール」設立中の視点から下町さん)
- **教科指導のみならず生活指導と両輪**で行事や活動を通じて子どもたちに寄り添う
(フランスの視点から 島内さん)
- オープンクラスの実施と実践記録の共有による**教師コミュニティ**
(フィリピンの視点から Paulineさん)



生徒の視点

- 日本の先生は**安心**できる。学校行事に**文化祭**があることにおこがれる (在日インターナショナルスクール：Sotaさん)
- 「**家庭科**」という**教科**を当たり前と思っていたが、フランスにはないことに驚いた。(フランスの高校生と交流：bunnyさん)



Thank you for listening.



note開設 —先進的な教育改革を、更なるステージに。—

戸田市教育委員会教育長の戸ヶ崎勤です。このたび、**全国でも先進的とされる本市の挑戦についてより多くの方々に理解していただき、教育改革を更なるステージに到達させることを目的に、noteを開設することとしました！**定期的に更新していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



戸田市教育委員会教育長 戸ヶ崎勤

さて、7月20日に、戸田市教育政策シンクタンクアドバイザリーボードをオンラインで開催しました。このアドバイザリーボードは、おそらく市町村としては全国初の取組として令和元年に設置した、優れた教師の匠の技の言語化・可視化・定量化や個別最適な学びの実現、EBPM (EIPP) の推進に取り組む「教育政策シンクタンク」が行う調査研究等の方向性に対する指導及び助言を行うため、教育長が設置するものです。

 **note** 戸田市教育委員会公式 note



facebook 戸田市教育委員会公式



戸ヶ崎勤

カバ写真を編集

戸ヶ崎個人のfacebook
戸田市の教育の取組を中心に毎日投稿しています。友達申請して御高覧ください。